

人体構造学Ⅱ		講義	教授 西川 彰	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目		科目ナンバリング	12311102

1. 授業のねらい・概要

医療専門職を志す者にとって、人体の構造学（解剖学）は最も基盤となる学問である。この授業では、骨格系並びに筋系といった運動器の構造を各部位別に学ぶことから始め、その後は、中枢神経と末梢神経に分けて神経系について学習する。また、単元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、重要な部位についてはテキストの解剖図をスケッチし、その構造学的特徴を記入した「人体構造学レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス 運動器①（骨組織と筋組織の基本構造）	8. 運動器⑧（下肢の筋）
2. 運動器②（頭部の骨と関節）	9. 神経系①（神経組織の基本構造）
3. 運動器③（体幹の骨と関節）	10. 神経系②（脳）
4. 運動器④（頭部・体幹の筋）	11. 神経系③（脊髄）
5. 運動器⑤（上肢の骨と関節）	12. 神経系④（脳神経）
6. 運動器⑥（上肢の筋）	13. 神経系⑤（脊髄神経）
7. 運動器⑦（下肢の骨と関節）	14. 神経系⑥（自律神経）
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「人体構造学レポート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、構造学的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能や病態との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（レポート）（約30%程度）並びに定期試験の結果（約70%程度）より総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会監修、『解剖学 第2版』、医歯薬出版、2008年
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。